

「事業名：広野町における未利用資源の探索と資源化 みかんプロジェクト」 2019年度事業の概要

福島高専 連携市町村：広野町

現地拠点：双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3 ニツ沼公園パークギャラリー内 福島高専 地域復興支援室広野オフィス

事業のポイント

- ・放課後に広野小学校で理科教室を開催し、参加する小学生に微生物や化学のおもしろさや実験で確かめる教育活動を行う。
- ・温暖な広野町のシンボル「みかん」に7種類の酵母の存在をDNA解析より確認できた。
- ・広野町産の米粉と町由来の酵母で米粉パン作りのために有用微生物（酵母）の探索活動を継続する。
- ・農産廃棄物の資源化は、地域の持続可能性を高める物質循環のモデルを実現する取り組みであること。
- ・広野町で生産されるバナナとパパイアの鮮度保持や廃棄物の資源化など生産活動の支援を行う。

2019年度の活動内容

- ・小学校の放課後理科教室に微生物実験を取り入れる。
- ・酵母菌の性能試験を広野小などで実施する。
- ・有用微生物の探索対象をみかん、バナナ、パパイアの3品に拡大する。
- ・町の熱帯植物園の運営の持続可能性を高めるよう協力する。
- ・ネットワークを活用した計測技術などで熱帯植物園の運営に協力する。



放課後理科教室(広野小)

取り組みによって得られる成果

- ・科学や技術、産業活動に対する理解醸成
- ・広野町由来の有用微生物の応用と展開
- ・広野町産のバナナなどの品質向上、6次化支援
- ・農産廃棄物の資源化モデルの実現、持続可能性の向上



熱帯植物園のバナナ
(広野町ニツ沼総合公園)



精製した酵母の
DNAバンド